# アポイに思う

### 駒井千恵子

余種あり、固有の植物も多い。周辺は降雪量も少な の浮上した歩道である。○種もの植物が生育し、その中には高山植物が八○ ここは昨年来、自然保でではイ岳、標高八一○・六m、小さな山だが八○ 業員の方が新登山道のけ

ち葉に道をゆずり、枯れ葉に埋もれていく。の葉が色付く頃、残り少なくなった花は、やがて落色やピンクの可憐な花々が競って咲き、十月、木々在やピンクの可憐な花々が競って咲き、十月、木々イワザクラ、アポイタチツボスミレ、エゾキスミレ、月にかけてはヒダカソウ、サマニユキワリ、ヒダカ

ウジョウバカマが登山道の最初を飾る。五月から六いため、四月には、頂上付近を残して雪は消え、ショ

たのは、完成してからである。

いつつも、それが新しい登山道であることがわかっ

今、少しづつ壊れてきそうな気配がする。ものと思っている。その一つであるアポイの自然が、心やすまり、いろいろなことを教えてくれ、敬虔な私は自然がこの上なく好きである。自然は美しく、

# 新登山道の出来るまでとその様子

登山口付近まで行くと、乗り入れた車と、数人の作ズンオフの山は登山者もなく、静まり返っていたがたい季節風が吹き、ときおり雪が舞い降りた。シーンのアポイへ向かった。この日は曇り時々晴れ、冷十二月四日、すっかり彩りのなくなった、モノトー

)P ことに賃ぎらら。 ここは昨年来、自然保護の観点から指摘され、問題 業員の方が新登山道の修復、改良工事をしていた。

おろしている。 ポイは雪だ」など、毎日の生活の中にアポイは根を はもう咲き始めただろうか」、「寒いと思ったらア を見ては、「今日は登山日よりだ」、「ヒダカソウ たん家を出るとアポイはいつも望むことができ、山 **うに思う。十五年程まえから登山回数は増え、ここ** 防ぐためなのか両サイドの溝に丸太を埋め込んでい 水はけを良くするためか、盛り上げた道のくずれを 段の部分が圧縮され凹みが大きく、とても歩きづら 数年、多いときは年に一五回にも及んだ。また、いっ 為的なものはまったくなく、自然そのものだったよ なる。当時は年に数回登山する程度であったが、人 る。もう終わったとおもった工事はまだ続いていた。 い。そこにオリビンを補充するのであろう。それと、 私がアポイと付き合い始めたのは二十年程まえに 登山道には採石のオリビンが敷かれているが、階

物を保護するようになった。ズルズル滑るようなとわった。植物の多いところには栅がはられ、高山植十数年間のあいだに、五合目にある小屋が建て変

を求めてやって来るのである。足元の可憐な花を踏

山の静寂を破った。何かが始められている、と、思え真は、ちってがしまった。 にアカーを好してったりのけたたましい音、重機の重々しい音などが響き、ウのけたたましい音、重機の重々しい音などが響き、ウのけたたましい音、重機の重々しい音などが響き、ウのけたたましい音、重機の重々しい音などが響き、ウのけたたましい音、重機の重々しい音などが響き、ウのけたたましい音、重機の重々しい音などが響き、ウのけたたましい音、重機の重々しい音などが響き、ウのけたたましい音、重機の重々しい音などが響き、ウのけたたましい音、重機の重々しい音などが響き、ウのけたたましい音、重機の重々しい音などが響き、ウのけたたましい音、重機の重々しいる、と、思いの静寂を破った。何かが始められている、と、思いの静寂を破った。何かが始められている、と、思いの静寂を破った。

まっているように思う。まっているように思う。というによるに、真のものが見えなくなってした考えだ。はやりの「森をつくる」などという言とが行われている。自生している植物があるにもた考えだ。はやりの「森をつくる」などという言とはが行われている。自生している値をしている。という行われている。自生している。という行われている。という行為は、他でも同じようなことが行われている。という行為は、他でも同じようなことが行われている。

#### アポイの花

下ボイの花は、大雪山などの高山と違って夏に一下ボイの花は、大雪山などの高山と違って夏に一たので見落としていたのだろうか。<br/>
たので見落としていたのだろうか。

しかし、登山者の中こま心ない人もいる。珍しいれない。 たときなどは素晴らしい自然に感謝しないではいらたときなどは素晴らしい自然に感謝しないではいらさに感動するのだが、まして、初めての花に出合ったと、毎年みている花でも、見るたびにその美し

は、いつも受難が待ち受けている。見頃と思って出花や、園芸的に親しまれているような種類のものにしかし、登山者の中には心ない人もいる。珍しい

として美しく輝いている。 たる自付近、吉田山に広く分布していて、アポイの花力は旺盛のようで難にもめげず、幌満のお花畑、九株は、すっかり姿を消している。しかし、幸い生命かは、その最たるものらしい。数年前に撮ったいいウソウやサルメンエビネ、アポイの固有種ヒダカソウソウやサルメンエビネ、アポイの固有種ヒダカソかけても、もう、その株はなかったりする。ギンリョかけても、もう、その株はなかったりする。ギンリョ

## アポイ岳自然観察会に参加して

た 移入では遺伝子レベルで問題があると言うことだっ 物の移入、また自生している種類でも他地域からの などを植栽してあるが、アポイに自生していない植 て、 を歩くことになる。歩くたびに採石が大きな音を立 らいため、つい両サイドを歩いてしまう。左右の草 たことだが、草木を刈り取った後には、ヤマツツジ きをかき消してしまう。そして観察会で初めて知っ し、樹林下を好む植物が生育できない。夏は炎天下 木が刈り取られているため、草花の観察が出来ない ながら、この登山道について考えた。階段は歩きづ がふり、雨の中の観察会となった。新登山道を登り 会」の開催は五月二三日だった。この日は朝から雨 北海道自然保護協会主催の「アポイ岳自然観察 虫の羽音や野鳥のさえずり、季節の風のささや

の前に自由な意見はでない。との登山道のように新しく何かを始めるときは、や必要性について十分検討してもらいたい。もし、や少数の意見が、全体の意見として言われることがあらなければならないものであるなら多方面から意見を関き、それぞれの専門的な意見を熟慮してから施を聞き、それぞれの専門的な意見を熟慮してから施めの前に自由な意見はでない。

たのではないかと思う。しんでもちえるようなものであれば問題は少なかっ道の意味を考えて、自然を配慮した、登山者にも親る側ももっと勉強が必要であろう。この場合、登山必要なものだったとして、発注する側も、受注す

アポイの登山者からこんな言葉をよく耳にする。いだとぎれそうにもない。きそうな木が何本かある。修復作業はしばらくのあきそうな木が何本かある。修復作業はしばらくのあ斜面を削り取って作った道には、まもなく倒れて

ているのだろうか。「新しい道は一回通ったらもういいな。」そして旧「新しい道は一回通ったらもういいな。」そして旧



ヒダカソリ